

愛南町個別施設計画 (消防系施設)

令和 3 年 3 月策定

令和 7 年 9 月改訂

目次

第 1 章 消防系施設整備計画の趣旨

第 1 節	計画策定の背景と目的	5
第 2 節	計画期間	5
第 3 節	対象施設	5

第 2 章 消防系施設の状況

第 1 節	消防系施設の現況	6
	消防系施設一覧（表－1）	
第 2 節	施設の更新と管理	8
	(1) 消防施設の更新・整備に当たっての基本的な考え方	
	(2) 施設の基本性能	
	(3) 保全管理の考え方	
	(4) 管理の実施計画	
	(5) 総合的かつ計画的な管理を実現するための体制の構築方針	
	(6) フォローアップの実施方針	

第 3 章 管内人口の現況と課題

第 4 章 財政の現況と課題

別表 1 消防系個別施設事業実施計画一覧表

第 1 章 消防系施設整備計画の趣旨

第 1 節 計画策定の背景と目的

愛南町消防本部は、昭和 50 年 4 月 1 日、南宇和郡内の消防体制を充実させることを目的に、旧五か町村で組織する南宇和消防事務組合として業務を開始し、平成 16 年 10 月、旧五か町村が合併して愛南町が誕生してから現在に至るまで、住民の安心・安全のため消防業務に努めているところです。

全国の地方公共団体では、高度経済成長期を経て、多くの公共施設等の整備を行ってきましたが、現在、これらの公共施設やインフラが一斉に改修・更新時期を迎えている状況ですので、将来的に多額の費用が必要と見込まれており、本町においても例外ではありません。

また、当消防本部の関係施設についても、改修・更新時期を迎えていることから、更新等費用が町の財政に大きな負担となることは明らかなです。

こうした状況を踏まえ、当消防本部が管理する関係施設等の全体状況を把握して、長期的な視点で更新・長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担の軽減・平準化と関係施設等の全体適正化を図るため、「愛南町個別施設計画・消防系施設」を策定します。

第 2 節 計画期間

個別施設計画の計画期間は、令和 2 年度(2020)～令和 26 年度(2044)までの 25 年間とします。

第 3 節 対象施設

本計画は、公共施設等総合管理計画の下位に位置づけられる計画ではありますが、消防施設整備の具体的な計画であることを踏まえると、対象施設を拡大し町内の消防施設全般とすることが合理的であると考えられます。そこで、本計画の対象とする施設は下記の消防施設を基本とします。

計画対象施設

- 1 消防本部庁舎
- 2 消防団関係施設（消防詰所 47 棟、消防車庫 13 棟、消防ポンプ倉庫 12 棟）
- 3 御荘水防倉庫
- 4 福浦災害救済備蓄倉庫

第2章 消防系施設の状況第1節 消防施設の現況

愛南町が保有する消防系施設は、表－1に示すとおり、消防本部庁舎、消防団施設、水防倉庫、災害救済備蓄倉庫を含め75施設あります。

消防団施設においては老朽化した施設も多く、可能な限り長期間使用するためには、計画的な「予防保全型の維持管理」を基本に、適切な維持管理・修繕等を行い、ライフサイクルコストの縮減に取り組んでいきます。

表－1

	施設名	対象施設	構造	延床面積 (㎡)	築年月	耐用年数	経過年数	使用目標年数
1	愛南町消防本部庁舎	庁舎・車庫等	RC	2,778.97	H27. 3	50年	10年	60年
2	内海方面隊柏消防詰所	消防詰所	W	95.08	R 2. 3	15年	5年	40年
3	内海方面隊旧柏消防詰所	消防詰所	RC	73.80	S56. 3	38年	44年	60年
4	内海方面隊須ノ川消防詰所	消防詰所	W	74.90	R 6. 3	15年	1年	40年
5	内海方面隊旧須ノ川消防詰所	消防詰所	RC	50.40	S55. 2	38年	45年	60年
6	内海方面隊柏崎消防詰所	消防詰所	RC	62.40	S55. 3	38年	45年	廃止
7	内海方面隊家串消防詰所	消防詰所	S	71.66	H21. 3	31年	16年	60年
8	内海方面隊平婆消防詰所	消防詰所	S	60.00	H28. 3	31年	9年	60年
9	内海方面隊油袋消防詰所	消防詰所	S	60.00	H30. 3	31年	7年	60年
10	内海方面隊魚神山消防詰所	消防詰所	RC	54.90	H53. 3	38年	47年	60年
11	内海方面隊網代消防詰所	消防詰所	RC	49.50	S57. 3	38年	43年	60年
12	御荘方面隊平城消防詰所	消防詰所	S	97.78	H 6. 3	31年	31年	60年
13	御荘方面隊節崎消防詰所	消防詰所	S	60.00	S55. 3	31年	45年	60年
14	御荘方面隊深泥消防ポンプ倉庫	消防倉庫	W	12.00	H25. 2	15年	12年	廃止
15	御荘方面隊馬瀬消防ポンプ倉庫	消防倉庫	S	10.90	S57. 3	31年	43年	廃止
16	御荘方面隊中浦消防詰所	消防詰所	S	105.00	H 3. 4	31年	33年	60年
17	御荘方面隊中浦尻貝消防詰所	消防詰所	LS	30.00	S55. 3	31年	45年	40年
18	御荘方面隊中浦左右水消防車庫	消防車庫	W	20.00	H 3. 3	17年	34年	廃止
19	御荘方面隊中浦猿鳴消防車庫	消防車庫	W	12.00	H24. 12	17年	12年	廃止
20	御荘方面隊赤水消防詰所	消防詰所	W	53.78	H30. 3	15年	7年	40年
21	御荘方面隊赤水高畑消防詰所	消防詰所	W	27.16	H16. 2	15年	21年	40年
22	御荘方面隊赤水防城消防倉庫	消防倉庫	W	6.00	S49. 4	15年	5	

ら、消防施設の長寿命化等による経費削減や、従来以上の効率化も重要な課題であると認識する必要があります。

第4章 財政の現況と課題

本町の財政状況は、これまで行ってきた行財政改革等の効果もあって、令和6年度決算に基づく財政健全化指標は、実質公債費比率 10.0%、将来負担比率-%となっており、基金残高約 114 億円（合併後約 64 億円の増）、地方債残高約 127 億円（合併後約 138 億円の減）と、持続可能で健全な財政運営を維持してきたところですが、地方交付税の合併特例措置が令和元年度に終了し、今後も、人口減少等から交付額は減少していくものと見込まれます。そのほかにも、将来的に見込まれる公共施設等の維持管理・更新費用、人口減少等に伴う地方税の減少、想定を越す災害への対応等を考慮すると、楽観視できる状況にはなく、これまで以上に様々な行財政改革に取り組んでいかなければなりません。また、公共施設についても地域バランスと町全体の総量の適正化を図ることが重要な課題となっています。

